

**「基本的人権の尊重」**

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とのかかわる力

**単元について**

## ○単元観

本単元は、学習指導要領1-(1)の「個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」ことを目標としている。

小学校における公民的分野の学習は、第6学年から始まる。小学校学習指導要領第2章第2節の2の中で、「我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいて」行われていることを調査し、理解させることが内容として書かれている。小学校の学習の段階で日本国憲法は「国家の理想」「国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本」が記載されていることを学び、理解していると言える。小学校での学習や中学校学習指導要領の内容をふまえ、生徒に民主的な見方や考え方をさらに深めさせるため、具体的な事例を取り上げながら学習を進めていく。それによって、生徒の知的好奇心を高めさせるとともに、ものの見方は一つではなく、多面的に物事を考察していくことの重要性を認識させ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。

## ○生徒観

昨年度から教科担当をして、指導してきている生徒ある。授業では、よく聞きよく考えて判断するよう指導してきている。少人数での指導のため、意見が多数出て活発に話し合ったり、討議したりすることはできていない。しかし、自己が考えた意見や思いを授業に反映できるようにと指導してきている。

## ○指導観

指導にあたっては、主体的な学びとなるよう、生徒に必然性を感じることでできるような課題設定を行う。本単元では、基礎的な知識・技能について、講義形式の授業を含めた丁寧な説明を心がけるとともに、教え合い活動を取り入れた演習を繰り返し、身に付けさせる。さらに、習得した知識・技能を生かした討論型の授業を設定し、自分たちの意見を発表し合い、お互いの考えを尊重し、理解し合う中で、思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい。

本時は、「人権保障とその問題点」をテーマに、社会的な事例として「私小説の出版差し止め問題」を取り上げ、原告側と被告側の対立と原因と主張について整理させる。そのうえで、両者の考え方をふまえて、裁判官として自分だったらどのような判決を下すかを多面的・多角的に考察させ、意思決定をさせる。討論場面では、他者と意見交換し、比較・共感を繰り返し、自らの考えを深めさせたい。この事例は、結果として原告側の意見を尊重し、「出版差し止め」となったが、このような問題が起こらないようにするためには、どのようなことが今後、社会において必要なのかを「対立と合意」「効率と公正」の視点から考えさせ、説明させたい。

**単元の目標**

- (1) 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原則としていることを理解することができる。
- (2) 天皇の地位と天皇の国事行為について理解することができる。
- (3) 人間の尊重に関する資料を収集し、図表などにまとめることができる。
- (4) 社会生活における事象から課題を見だし、「対立と合意」、「効率と公正」等の視点から考察し、その過程や結果を説明することができる。

## 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象について の知識・理解
<p>①人々の生活の中に存在する差別や偏見に気づき、それらをなくすために必要なことについて意欲的に発言している</p> <p>②平等権の内容を理解し、様々な差別をなくすための施策を理解している。</p> <p>③バリアフリー施設の種類や目的に関心を持ち、身近なバリアフリーの施設を探そうとしている。</p> <p>④環境権や自己決定権とよばれる新しい人権を身近なものとして関心をもっている。</p>	<p>①現在もなお解消されていない差別について正しく理解し、差別解消への取組について考えている。</p> <p>②新しい人権という既習事項をふまえ、自分なりの考えを根拠づけてまとめている。</p> <p>③ドナーカードをもとに、様々な視点から臓器提供について考え、まとめている。</p> <p>④人権の保障と公共の福祉について、既習事項をふまえて、考えを整理し、まとめている。</p>	<p>①複数ある資料を精選し、必要な情報を抽出している。</p>	<p>①獲得された人権の広がりとして、日本国憲法における人権保障のあり方を基本的人権獲得の歴史をふまえて理解している。</p> <p>②自由権の内容には精神・生命・身体・経済活動の自由があることを理解している。</p> <p>③社会権を構成するそれぞれの権利の内容が人間らしい生活を保障する権利であることを理解している。</p> <p>④参政権や請求権が基本的人権を実現するための権利であることを理解している。</p> <p>⑤新しい人権が幸福追求権に基づいて主張されるようになり、その内容を社会の変化や発展とのかかわりから理解している。</p>

## 資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力			評価の観点			
			関	考	技	知
知識						○
スキル	思考力・ 判断力・ 表現力	思		○		
意欲 態度	主体的に学ぶ力	主	○			
価値観 倫理観	他者とのかかわる力	他		○		
	社会貢献力	社				
	自己形成力	自				

## Ⅰ 学習内容とⅡ 学習活動、Ⅲ 単元として育てたい資質・能力のつながり

- Ⅰ 「対立と合意」、「効率と公正」という現代社会をとらえるための見方や考え方を養うために、
- Ⅱ 習得した知識、概念や技能を活用して、社会的事象について考えたことをまとめ、
- Ⅲ 説明し、議論できる力を身に付けさせる。

## 単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
インターネットの普及で情報が簡単に手に入る時代となりました。便利になった一方で、情報の漏えいや不正なアクセスによる情報流出の問題などが起こっています。今日の社会で、いかに個人のプライバシーを守り、安心した生活を送ることができるのか。そのために必要なことはどのようなことかを考えてみよう。そして、どうすれば良いかを説明しなさい。	A	結論先行型で自分の考えを述べ、その根拠を憲法の条文や法律を利用して、理路整然と説明することができる。また、この案件について未然に防ぐ方法まで思考を深め、説明できる。
	B	結論先行型で自分の考えを述べ、その根拠を憲法の条文を利用して、説明している。未然に防ぐところまで思考を深めることはできていない。
	C	自分の考えを述べたが、その理由を説明することができない。

## 指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価					
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法)	◇資質・能力育成場面 【資質・能力】 ◆資質・能力評価場面 【資質・能力】 (評価方法)
1	課題の設定	・ 基本的人権と個人の尊重について、理解する。	◎				アー① (発言内容) (ノート)	◇自らの生活や周りとの関係性を踏まえ、自分の意見を積極的に発表、ノートに整理している。 【主ー①, 他ー①】
2	整理情報の 収集	・ 基本的人権を構成する主要内容である平等権について理解する。				◎	エー① (発言内容) (ノート)	◇他者の意見を交流する中で、自分自身の意見を客観的にとらえるとともに、他者の意見を大切にし、自らの意見を修正し、より良いものに近づけようとしている。 【思ー①, 主ー①, 他ー①】 (ノート)
3		・ 基本的人権を構成する主要内容である自由権について理解する。				◎	エー② (発言内容) (ノート)	
4		・ 基本的人権の基礎である社会権の内容を理解する。 ・ 日本の社会に存在する差別について考える。	○	◎			アー② (発言内容) (ノート) イー① (発言内容) (ノート)	
5		・ 人権保障を確かなものにするについて、関心を持つ。	◎				アー③ (発言内容)	◆自分の意見を結論先行型で伝えるとともに、その根拠を明確に示し、説明することができる。

6		・「公共の福祉」と国民の義務について理解する。				◎	イー② (発言内容) エー③ (発言内容)	【思ー①, 主ー①, 他ー①】 (ノート)
7		・新しい人権①を理解する。 ・社会の変化に応じて, 環境権や自己決定権とよばれる新しい人権が主張されていることに関心を持つ。				◎	エー④ (発言内容)	
8		・新しい人権②を理解する。 ・「情報化の進展と人権」について, 情報の公開とプライバシーの権利について考える。 【本時】				◎	エー⑤ (発言内容) (ノート)	◆自分の意見を結論先行型で伝えるとともに, その根拠を明確に示し, 説明することができる。 【思ー①, 主ー①, 他ー①】 (ワークシート)
9	まとめ・ 振り返り 創造・ 表現	・グローバル社会と人権について, 考えをまとめる。		◎	○		イー③ (発言内容) ウー① (ノート)	
10		・本単元を貫く課題について, 具体的な事象をもとに整理し, まとめる。	◎	○		アー④ (発言内容) イー④ (ノート)		

## 本時の学習

(1) 本時の目標

情報化社会でのプライバシーの保護の問題を考え, 自分の考えをまとめることができる。

(2) 準備物

教科書, ワークシート 資料集

(3) 学習過程 (8 限目/10)

情報の収集

整理・分析

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導入 (10分)	・インターネットの普及でもたらされた便利な情報化社会のメリットを考えてみよう。	・そこに潜んでいる課題について考えようとする意欲を生徒に持たせたい。 本時の流れと, 評価規準について確認させる。	
	<p>【本時のめあて】 情報化社会でプライバシーの権利を守る社会の実現について考え, 自分の意見をまとめることができる。</p>		

展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてをふまえた「パフォーマンス課題」を提示し、何が課題を考えさせる。</li> </ul>		
	<p><b>【パフォーマンス課題】</b></p> <p>インターネットの普及で情報が簡単に手に入る時代となりました。便利になった一方で、情報の漏えいや不正なアクセスによる情報流失の問題などが起こっています。今日の社会で、いかに個人のプライバシーを守り、安心した生活を送ることができるのか。そのために必要なことはどのようなことかを考えてみよう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会でのインターネットのメリット、デメリットを考えてみよう。</li> <li>・権利の対立について確認する</li> </ul>	シート	
	インターネット普及のメリット		インターネット普及のデメリット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の情報を簡単に集めることができるようになった。</li> <li>・双方向での意見交換ができる。</li> <li>・第3のメディアとして、個人で情報発信ができる</li> </ul>	社会の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の情報が流失する。</li> <li>・プライバシーが保護されにくい。</li> <li>・個人的な意見が暴走し、勝手に広まる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報流失による損害を国なりが補償すべきだ。</li> <li>・国による、情報のある程度の制限は必要ではないか。</li> </ul>	主張	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の発信には、表現の自由がある。</li> <li>・プロバイダーには経済活動の自由がある。</li> </ul>
	<p>日本国憲法第 11 条</p> <p><b>【基本的人権の享有】</b></p> <p>日本国憲法第 13 条</p> <p><b>【個人の尊重、幸福追求権、公共の福祉】</b></p>	根拠	<p>日本国憲法第 21 条</p> <p><b>【表現の自由】</b></p> <p>日本国憲法第 22 条</p> <p><b>【職業選択の自由】</b></p> <p>日本国憲法第 29 条</p> <p><b>【財産権】</b></p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返る。</li> <li>・個人で、説明をまとめる。</li> </ul> <p>(K)…繰り返し挑戦する</p> <p>(H)…はっきり表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題に対して、このような対立を解決させるために必要なこととは何かを、法的根拠をふまえてまとめさせる。</li> </ul>	